

# ミャンマー

# Republic of the Union of Myanmar

	2008 年	2009 年	2010 年
①人口:5,884 万人(2009 年)			
②面積:67 万 6,578k m <sup>2</sup>			
③1 人当たり GDP:702 米ドル (2010 年)			
④実質 GDP 成長率(%)	3.6	5.1	5.3
⑤貿易収支(米ドル, 年度)	22 億 2,968 万	33 億 8,234 万	24 億 5,237 万
⑥経常収支(米ドル)	△6 億 9,400 万	△4 億 5,400 万	△9 億 6,600 万
⑦外貨準備高(米ドル)	n.a.	n.a.	n.a.
⑧対外債務残高(米ドル)	81 億 300 万	86 億 200 万	91 億 9,100 万
⑨為替レート(1 米ドルにつき, チャット, 年度平均公定レート)	5.451	5.455	5.545

〔注〕年度は 4 月～翌 3 月  
 〔出所〕①④⑥⑧アジア開発銀行(ADB), ②国連(統計年鑑), ③IMF(WEO), ⑦IMF(IFS), ⑤⑨ミャンマー中央統計局(CSO)

## ■ 経済成長率は 5%台を維持

アジア開発銀行(ADB)によると、2010 年度(2010 年 4 月～2011 年 3 月)のミャンマー経済は、新首都のネーピードー開発や同市とマンダレー間を結ぶ高速道路の敷設などによる開発需要が下支えたことから、実質 GDP 成長率は 5.3%となり、5%台を維持した。

ミャンマーでは 2010 年 11 月に約 20 年ぶりに総選挙が実施され、2011 年 3 月 30 日、軍事政権が幕を下ろし、新政権が発足している。商業相にはミャンマー連邦商工会議所連合会(UMFCCI)元会頭が就任したことで、経済界からはビジネス環境改善に向けた期待の声も聞かれる。

## ■ 貿易収支は 9 年連続黒字に

2010 年度の貿易は、輸出が前年度比 18.9%増の 491 億 680 万チャット、輸入が 55.5%増の 355 億 840 万チャットとなった。政府は、輸出で得た外貨の範囲内でのみ輸入を認める「輸出第一主義(Export First Policy)」を貿易政策としている。このため、貿易収支は 9 年連続の黒字となったが、その黒字額は 135 億 9,840 万チャットと、前年度比 26.3%減となった。

輸出を品目別にみると、天然ガスはほぼ全量の輸出先であるタイの需要減により前年度比 12.0%減の 139 億 4,680 万チャットであったものの、輸出額の約 3 割を占め、引き続き第 1 位であった。2009 年 10 月末から、ラカイン州チャオピューから中国雲南省につながる石油パイプライン用の原油輸入港関連施設の建設、また 2010 年 11 月初めから天然ガス・パイプライン建設作業用港の工事がそれぞれ始まっており、2013 年には石油・天然ガスの中国向け輸出が開始される見込みとなっている。次いで、豆類が 12.1%減の 44 億 4,980 万チャットとなった。2009 年度はインドの不作の影響もあり、ミャンマー産の需要が高まり大幅増となったが、2010 年度はインドの回復もあり、従前の水準近くまで戻った。第 3 位の縫製品は、36.0%増の 21 億 10 万チャットとなった。近年特に日本からの受

注が伸びており、紳士服、ワイシャツ、作業着などの輸出が増加している。ゴムの輸出金額は 8 億 4,890 万チャットと大きくはないものの、国際的なゴム価格の上昇により前年の 2.1 倍となった。また、主要輸出産品以外の詳細品目は公表されていないが、宝石類、特にヒスイも輸出増に寄与しているとみられる。毎年ネーピードーで開催される宝石展には、中国を中心に海外からバイヤーが多数訪れて、活発な商談が行われている。

国・地域別にみると、タイが前年度比 7.8%減ながら 160 億 6,520 万チャットで 1 位、次いで香港、中国、インド、シンガポールと続いた。タイは天然ガス、香港は宝石類、中国は宝石類に加えゴム製品、水産品、ゴマなどの農産品、インドは豆類、木材がそれぞれ上位を占めた。

表 1 ミャンマーの主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位:100 万チャット, %)

	2009 年度		2010 年度	
	金額	金額	構成比	伸び率
輸出総額(FOB)	41,289.1	49,106.8	100.0	18.9
天然ガス	15,853.8	13,946.8	28.4	△ 12.0
豆類	5,062.9	4,449.8	9.1	△ 12.1
縫製品	1,543.7	2,100.1	4.3	36.0
チーク	1,171.7	1,709.4	3.5	45.9
堅木	1,518.9	1,595.8	3.2	5.1
魚類	1,053.3	1,168.3	2.4	10.9
コメ	1,391.0	1,091.9	2.2	△ 21.5
ゴム	405.5	848.9	1.7	109.3
エビ	346.2	367.2	0.7	6.1
ごま	184.2	250.7	0.5	36.1
輸入総額(CIF)	22,837.4	35,508.4	100.0	55.5
精油	3,674.3	7,711.3	21.7	109.9
一般・輸送機械	4,908.2	6,660.8	18.8	35.7
卑金属・同製品	1,992.9	3,065.8	8.6	53.8
電気機械・器具	977.1	1,928.4	5.4	97.4
プラスチック	859.2	1,371.5	3.9	59.6
合繊織物	780.2	1,150.6	3.2	47.5
食用植物油	975.9	1,122.2	3.2	15.0
医薬品	797.7	1,002.9	2.8	25.7
セメント	312.6	774.5	2.2	147.8
紙・同製品	318.1	389.9	1.1	22.6
ゴム製品	350.9	338.1	1.0	△ 3.6

〔出所〕表 2, 3 と同、ミャンマー中央統計局。

表2 ミャンマーの主要国・地域別輸出入<通関ベース>

(単位:100万チャット, %)

	2009年度		2010年度	
	金額	金額	構成比	伸び率
輸出総額(FOB)	41,289.1	49,106.8	100.0	18.9
タイ	17,431.0	16,065.2	32.7	△ 7.8
香港	5,162.9	10,530.6	21.4	104.0
中国	3,359.0	6,662.9	13.6	98.4
インド	5,512.9	4,858.1	9.9	△ 11.9
シンガポール	3,690.9	2,499.9	5.1	△ 32.3
マレーシア	832.2	2,445.9	5.0	193.9
日本	966.1	1,314.0	2.7	36.0
韓国	410.8	820.9	1.7	99.8
インドネシア	205.3	228.0	0.5	11.1
ドイツ	223.1	213.1	0.4	△ 4.5
輸入総額(CIF)	22,837.4	35,508.4	100.0	55.5
中国	6,854.9	12,005.1	33.8	75.1
シンガポール	6,593.0	9,116.9	25.7	38.3
タイ	2,069.6	3,938.6	11.1	90.3
韓国	1,221.5	1,683.4	4.7	37.8
インドネシア	760.4	1,526.1	4.3	100.7
日本	1,412.4	1,417.1	4.0	0.3
インド	1,058.5	1,079.9	3.0	2.0
マレーシア	871.3	805.0	2.3	△ 7.6
アメリカ	100.7	327.5	0.9	225.1
ドイツ	183.3	287.2	0.8	56.7
フランス	195.7	223.1	0.6	14.0

一方、輸入を品目別にみると、精油(主にディーゼル油)が前年度比2.1倍の77億1,130万チャットと最も多く、次いで、一般・輸送機械(天然ガス採掘用機材、コンテナ・トラックなど)が35.7%増の66億6,080万チャット、卑金属・同製品が53.8%増の30億6,580万チャットと続いた。これらはいずれも、ネーピードーの開発、同市とマンダレー間を結ぶ高速道路の敷設、ラカイン州チャオピューから中国雲南省につながる石油パイプラインの敷設工事などの大型建設、開発需要が寄与しているとみられる。また、合繊織物が47.5%増の11億5,060万チャットとなった。近年日本向けを中心に増加が続く縫製品の輸出に比例して、主に中国から生地などの原料輸入が増加しており、今後もこの傾向が続くと予想される。国・地域別にみると、中国が75.1%増の120億510万チャットで、前年に続き最大の輸入相手国となっている。次いでシンガポール、タイ、韓国、インドネシアと続いた。国別に主要輸入品目をみると、中国は一般機械、電気機器、各種部品、縫製原料など、シンガポールは精油や一般機械など、タイは天然ガス採掘用機材、各種建設資材などが上位を占めた。

### ■ 資源開発を中心に、投資額は過去最高に

2010年度の対内直接投資(認可ベース)は25件、199億9,800万ドルと過去最高となった。2010年度単年度で1989年度から2009年度までの21年間の累計投資額を超える規模の投資が認可されたことになる。石油、天然ガス分野の投資が101億7,930万ドル、電力分野が82億1,850万ドルとなり、両分野の合計額が全体の92.0%を占めた。国別にみると、韓国(10件、26億7,540万ドル、主

表3 ミャンマーの業種別対内直接投資<認可ベース>

(単位:100万ドル, %)

	2009年度		2010年度	
	金額	金額	構成比	
農業	-	138.8	0.7	
建設業	-	-	-	
水産業	-	-	-	
鉱業	2.5	1,396.1	7.0	
石油・ガス	278.6	10,179.3	50.9	
製造業	6	65.3	0.3	
輸送業	-	-	-	
ホテル・観光業	15.3	-	-	
不動産開発	-	-	-	
工業団地	-	-	-	
電力	-	8,218.5	41.1	
その他	-	-	-	
外国投資計	302.4	19,998.0	100.0	

に天然ガス開発関連)、香港(6件、57億9,828万ドル、主にガス・パイプライン建設関連、および銅鉱山開発)、中国(4件、82億6,923万ドル、主に水力発電建設)、タイ(2件、29億4,500万ドル、天然ガス開発関連)と続き、この4カ国で投資認可額全体の98.4%を占めた。

### ■ 縫製品の対日輸出が増大

日本の貿易統計(通関ベース)をドルに換算すると、2010年度の日本からミャンマーへの輸出は前年度比30.0%増の2億8,094万ドル、ミャンマーからの輸入は29.2%増の4億2,742万ドルと増加した。

ミャンマーへの輸出を品目別にみると、一般機械(建設機械など)が1億1,720万ドル(63.6%増)で最上位となり、次いで輸送機械(トラックなど)が5,679万ドル(30.8%減)となった。一方、ミャンマーからの輸入を品目別にみると、第1位が縫製品(布はく類)で2億839万ドル(42.2%増)、2位が靴・履物で8,274万ドル(12.9%増)となり、上位2品目の軽工業品で輸入の7割近くを占めた。

日本からの対内直接投資(認可ベース)では、2010年度に6年ぶりに縫製業で拡張投資(714万ドル)が行われた。2001年度に縫製業の2件(470万ドル)の新規投資が行われ、その後、2004年度に既存案件の拡張投資が行われて以来の投資となった。

同国は、深刻な電力不足、厳しい輸入規制など、貿易・投資制度・環境上の課題も多々あるが、低廉で良質な労働力が豊富であることや、日本向けの特恵関税が利用できることなどから、中国やベトナムに次ぐ労働集約型産業の投資・委託生産候補地として注目度が増している。2011年からはミャンマー縫製業者協会がミャンマー縫製人材開発センター(HRDセンター)にて定期的に研修プログラムを開講しており、縫製従事者に対する独自の技術指導も開始され、縫製産業の拡大に貢献するとみられる。